



2023.3.12

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanirinso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 41 年目
2023 年度は東京都都市公園制度制定 150 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定 ＜今年のニリンソウ月間＞ 3/18（土）～4/16（日）

- ・ニリンソウ観察 Day 2023 4/9（日）10:00～15:00
- ・大門自生地ニリンソウガイド 月間中の土・日 10:00～
- ・月間中のモニタリング（毎月曜日）は「春の野草観察会」

★「ニリンソウを守る会」は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

さあ！ スタート！ ニリンソウ月間 2023



←3/12 沖山地区の桜（ソメイヨシノ）が開花しました。まだ満開には程遠い0.5分咲き程度ですが、これから暖かい日が続けば3月中には満開になりそうです。ニリンソウはといえば、これまた0.5分咲きのさらにその半分ぐらい。でも、3/6のモニタリングではちらほらとしか見えなかったのが、この数日であちこちに咲くようになってきました（下の写真）。

例年では、桜（ソメイヨシノ）が満開になるとニリン

ソウも満開になります。

10年ほど前までは、4月の第1週に桜が満開、同時にニリンソウも満開だったので「ニリンソウ観察 Day」は4月の第二日曜日に設定していました。それが、気候温暖化の影響で開花時期が次第に早くなってきたので、年によっては「観察 Day」も繰



り上げるなどの工夫をしてきたのですが、1日で気温が10℃以上も上がったり下がったりするこの2、3年では開花がどのように進むのか、予測がつかないところがあります。

3/6の「守る会」は24名の参加で、ニリンソウ月間を控えた観察・学習会を行いました。



ニリンソウの勢いはどうでしょうか？



大門広場の奥に立ててある開花植物や保護活動の紹介看板の下にニリンソウの群落があります。大門から自生地に入る来訪者のみなさまには最初に顔を合わせ



るニリンソウなので「ウエルカム・ニリンソウ」と呼んでいるのですが、3/6は上左のような群落でした。右の写真は3/12に観察したもので、群落の右上に新しい葉が展開しています。このように群落が拡大している場所があちこちで確認されます。2018年度から取り組まれた赤塚公園生物多様性保全事業で、大門地区の野草の草原を拡大するためにメインステージに面した部分の擬木を後退させたり、ロープ柵を設置しましたが、

擬木の近くの足元やロープ柵内のニリンソウの群落は確実に拡大

していますので、ニリンソウは順調に勢いを増しているといえます。

しかし、観察台の東側のメインステージ付近でのニリンソウは、数年前までのように開花すると真っ白に群落が覆われていたのが、

近年ではまだら咲きが目立つようになってきました。

ここのニリンソウ自生地の土壌は40年前に保護活動が始まった時に比べて明らかに乾燥が進んでいて、地表近くの地中にある根茎が乾燥の影響を受けているのか、あるいは群落そのものが疲れてきたのか、はたまたその他の影響なのか、しっかりと観察を続けなければならないのですが、保護活動を担う者としてはハラハラどきどきのニリンソウシーズンではあります。

ニリンソウは赤塚公園の随所で観られます



←中央地区の南東端「赤塚公園交差点」の向こうは徳丸が丘緑地地区。そこでは人が歩いているその足元にニリンソウの大きな群落があります。ご近所の方は、これを踏みつけないように気をつけてくれているでしょう。

また、ニリンソウとそっくりな葉をした野草もあります。だれにも気づかれずに、小さな花が咲いています。同じキンポウゲ科の仲間



間ヒメウズ（右の写真）です。→
←タチツボスミレだって、大門よりもしっかりと咲いていました（左の写真）。ここから東へ辻山地区まで、住宅街が続く向かい側の崖下には、ニリンソウの群落が点在しています。